

日本学童保育学会 第15回研究大会 プログラム

■日 時：2025年6月14日（土）12時30分～

15日（日） 8時50分～

■会 場：北海道文教大学 8号館

（〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1）

＜現地で参加される方へのお願い＞

- ①現地参加される方は、事前に参加申し込みをし、大会参加費を当日受付にてお支払いください。
- ②発表要旨集は印刷・製本・配布しませんので、事前に送付されたファイルを各自印刷したものを持参されるか、端末に入れたものをご覧ください。なお、会場ではゲスト用Wi-Fiをご利用いただけます。

＜オンラインで参加される方へのお願い＞

- ①オンラインでの参加の場合は、課題研究ⅠとⅡ、自由研究発表の第5・6室、若手会員のラウンドテーブルのみ参加可能となります。
- ②オンライン参加希望の方は、参加申し込みをし、必ず参加費を事前に指定の口座までお支払いください。
- ③参加申し込みをし、大会参加費の支払いが確認された方にZoomの接続情報をお知らせします。
- ④Zoomに接続時は名前を「フルネーム（所属）」にしてください。接続するとまず待機室に入ってください、そこで申し込み名簿と照合させていただいた上で入室を承認します。
- ⑤討論時を除いて音声はミュートにしてください。ビデオはオンにしてください。
- ⑥Zoomアプリは最新のものをお使いください。通信環境は各自整えてください。
- ⑦万が一、進行を妨げる状況になった場合は、ご退室いただくことがあります。

＜自由研究発表者へのお願い＞※自主企画発表者も以下をご参考にご準備ください。

- ①自由研究発表で使用するすべての教室に、プロジェクターがあります。PCはありませんので現地発表者は各自でパソコンをご準備ください。
- ②当日資料等を配布されたい場合は、各自でご準備・ご持参いただくこととなります。会場ではコピーが使用できません（部数につきましては例年、1分科会20～30部程度とお伝えしていますが、各自でご判断くださいますようお願いいたします）。
- ③自由研究発表は2日目9時10分から開始となりますので、パソコンを使用される場合は9時までに発表教室（オンライン参加者はZOOM）に入室いただき、必ず事前に動作確認を行ってください。
- ④自由研究発表は、個人研究・共同研究（発表20分、討議10分）と共同研究（発表30分、討議15分）があります。発表者はそれぞれの申込発表時間及びプログラムをご確認の上ご準備ください。各室ごとに、すべての発表が終了したのち、総括討論を行うことを予定しておりますので、ご予定ください。

■日 程

6月14日(土) [第1日目]

12:30～ 受 付 (1階ロビー)

13:00～15:30

課題研究Ⅰ 子どもの貧困が学童保育実践に問うもの

(8号館5階 851教室・オンライン参加)

【趣旨】

「資産倍増」が政策として掲げられ投資への関心が高まる一方で、物価高に追いつかない賃金水準の故に節約を余儀なくされている人々も増えている。ここ10年の間に限っても階層間格差は拡大傾向にあり、それは子どもの養育にも色濃く反映している。

放課後の生活空間としての学童保育には、子どもの生活世界の質的な差異が反映する。例えば余暇活動の質や休日の過ごし方は所得水準に応じて大きく異なり、外食なども含めて生活経験の格差は大きくなっている。その背後には経済水準のみならず保護者の働き方の多様化(ダブルワークなど)、あるいは保護者自身が抱える困難などの複数の要因が積み重なっている場合も少なくなく、家庭内でのケアの質の格差は急激に拡大しているように思われる。

指導員は、子どもたちの声や態度を通して、そのような問題状況に気づいている。しかし、子どもたちが自らの生活現実に変更して向き合うことを支えることはもとより、一方が羨望の眼差しを送るような状況にある子ども同士のコミュニケーションへの介入や働きかけの見通しを得ることは容易ではない。そこで個々の家庭の話題には触れない、持ち込ませないという「配慮」がなされると、結果的には子どもたちが直面している課題は放置されることになる。

この課題研究では、以上のような子ども・家族をめぐる格差・分断状況に対して学童保育実践の課題や方法をどう設定するべきかを考えてみたい。最初に、教育福祉論の立場から松本伊智朗氏(北海道大学名誉教授)に、北海道内の子どもの貧困状況について調査結果をもとにご報告頂く。続けて、お二人の指導員の会員から学童保育の実践現場に現れる子どもの貧困問題についてご紹介頂き、あわせて学童保育実践の課題について言及して頂く。以上の報告に対し、指定討論者の福田敦志会員から、子どもの貧困問題との関わりで学童保育実践の課題と研究課題について問題提起を行って頂く。

【報告者】

- ・松本 伊智朗(北海道大学名誉教授):子どもの貧困と子どもの世界
- ・指導員:格差の下にある子どもの声を聴く
- ・指導員:さまざまな背景をもつこどもの生活づくり

【指定討論者】福田 敦志(広島大学)

【趣旨説明】 宮崎 隆志(北海道文教大学)

15:45～16:45 自主企画

I 「判断の間われる場面調査」から指導員の専門性について考えるIV:841 教室

企画提案者：大谷直史（鳥取大学）・代田盛一郎（大阪健康福祉短期大学）・二宮衆一（和歌山大学）

福武利（佛教大学大学院）・松本歩子（京都教育大学）・松田洋介（大東文化大学）

指導員の専門性に関する質問紙調査（2023年、n=1,952）の結果を基に、（調査者にも解釈できていない）調査結果について意見交換したい。前半は、運営主体による指導員と子どもとの関係性の違いである。学童保育は多様な運営主体によって担われており、企業の参入や保護者会のNP0法人化など、運営主体は変動の渦中にある。それが一体何を意味するのか、ないようである（あるようでない？）運営主体の違いについて日頃感じている印象から調査データを読み取って欲しい。後半は、学習と専門性の関連である。学習すれば専門性が高まるはずだが、質問紙調査の結果は時としてそれを裏切る。自己認識が進んだ結果、反省的に自己評価が低下するということであるのか、それとも学習方法や内容に問題があるのか。そもそも学習を量的に把握する困難を抱えつつ、いかなる学びが指導員の熟達を導くのか、みなさんの知恵と経験による読解を期待しています。

II 『わたしたちが求める学童保育の最低基準』を発行して

—学童保育所における最低基準について考えるII—:842 教室

企画者：小暮健一（前明星大学教育学部非常勤講師/所沢学童クラブの会）

提案者：松崎史織（全日本建設交運一般労働組合全国学童保育部会副部長）

助言者：垣内国光（明星大学名誉教授）

本企画は、2022年12月にまとめた『わたしたちが求める学童保育の最低基準』（p68冊子）の内容をこの間の情勢を受けて提議したい。全日本建設交運一般労働組合全国学童保育部会は、学童保育部会として1994年から全国学童保育研究会を毎年行い、今年で31回を重ねて来た。最低基準がある保育所は「保育所市町村の保育実施義務」（第24条）が定められているが、学童保育は「事業」（第6条）で、市町村には「利用の促進の努力義務」（21条）を求めるにとどまっている。「児童福祉施設」（第7条）に位置付けられて、子どもの最善の利益を保障するために最低基準の内容を考える。

III 「ソーシャルペダゴジーと学童保育 — ソーシャルペダゴジーは学童保育

実践の説明概念となり得るのか」:831 教室

企画者：楠凡之（北九州市立大学）・石原剛志（静岡大学）

提案者：細井勇（福岡県立大学名誉教授）

ソーシャルペダゴジーとは、ドイツで発祥し、ヨーロッパ各国に広がった教育と児童福祉を横断する概念であり、理論と実践との関係について、対話と省察を通じて不断に練り直されていく理論であり、実践であるとされている。この教育と児童福祉との統合、また、日々の実践を「対話と省察」の過程を通して不断に問い直していくという課題は学童保育実践の中では極めて重要なものであろう。本企画では、ソーシャルペダゴジーの概要について細井氏から問題提起していただき、この概念が学童保育実践にどのような意義を持ち得るのかについて討議したい。

17:00～17:45 総会（8号館5階851 教室）

18:00～20:00 懇親会（学生食堂）

6月15日(日) [第2日目]

8:50～ 受付 (1階ロビー)

9:20～12:00 自由研究発表(第5・6室のみオンライン参加可能)

<第1室> 学童保育における指導・支援① 司会：吉澤英里(星槎道都大学) : 821 教室

9:20～9:50

〈子どもがおもしろがることを、おもしろがりたい〉：学童保育指導員の語りの現象学的分析
○鈴木瞬(金沢大学)

9:55～10:25

高学年児童の過ごし方からみた学童保育の施設空間課題

重岡理香(住友林業株式会社)
○小伊藤亜希子(大阪公立大学)

10:30～11:00

子どもの主体性に着目した学童保育での生活実態と支援の方向性

○松本歩子(京都教育大学)

11:05～11:35

学童保育の長期休暇(夏休み)の食事提供について

○作田はるみ(神戸松蔭大学)
神澤佳子(奈良県消費生活センター)
片平理子(相模女子大学)

11:35～12:00 総括討論

<第2室> 学童保育における指導・支援② 司会：代田盛一郎(大阪健康福祉短期大学) : 822 教室

9:20～9:50

学童保育実習の内容及びICT化に関する研究

○中田周作(中国学園大学)

9:55～10:25

3つの学童保育施設における段ボール製「遊び家具」の取り組み

○清水肇(琉球大学)

10:30～11:00

学童保育現場におけるアート系ボードゲームの教育的有用性の検討

○武田信吾(関西学院大学)
○大谷直史(鳥取大学)

11:00～11:25 総括討論

<第3室> 学童保育の制度と経営 司会：住野好久(中国学園大学) : 823 教室

9:20～9:50

小学生の朝のこどもの居場所確保に関する調査研究

○植木信一(新潟県立大学)

9:55～10:25

デンマークの学童保育の法令に関する研究—学びに焦点を当てて—

○大山美桜(広島大学大学院)

10 : 30～11 : 15

スウェーデンの学童保育制度と内容に関する研究

○武田宏（元・大阪府立大学）

○小暮健一（NPO 法人所沢市学童クラブの会／前明星大学）

11 : 15～11 : 40 総括討論

<第4室> 学童保育と保護者・地域 司会：楠凡之（北九州大学）

: 824 教室

9 : 20～9 : 50

地域における運動教室の実践と課題：大学運動部が運営するクラブの取り組みを事例に

○黒崎辰馬（神戸医療未来大学）

櫻木規美子（神戸医療未来大学）

9 : 55～10 : 25

学童の防災マニュアルの提案

○森 康平（函館工業高等専門学校）

山縣耕太郎（上越教育大学）

八幡佳奈（夕張市）

10 : 30～11 : 00

学童保育における保護者支援—指導員のインタビュー調査から—

○福武利（佛教大学大学院）

11 : 05～11 : 35

学童保育と地域との関わりの実状—大阪府・京都府・滋賀県下の学校敷地内学童保育を対象としたアンケート調査より—

○塚田由佳里（同志社女子大学）

11 : 35～12 : 00 総括討論

<第5室> 実践と運営：オンライン開催 司会：石原剛志（静岡大学）

: 833 教室

9 : 20～9 : 50

オーストラリアの学童保育におけるプランニングサイクルの視点からの実践報告

○松本遼子（WOMBAT FAMILY J&A）

9 : 55～10 : 25

架け橋期における放課後児童クラブのあり方を管理職はどう捉えているか

○日下部笑（桜花学園大学大学院）

10 : 30～11 : 00

放課後児童支援員の職業能力

○佐藤彩（横浜市立寺尾中学校非常勤講師）

11 : 05～11 : 35

学童保育版「子どものセーフガーディングのための行動規範」の開発的研究—災害時の子どもの居場所づくりにかかわる先事例を手掛かりに—

○紙上くみこ（くろさきっず児童クラブ）

植木信一（新潟県立大学）

鈴木瞬（金沢大学）

11 : 35～12 : 00 総括討論

9：20～9：50

「実践記録」を書くことと読むことに関する考察

○森崎照子（あいち保育研究所）

9：55～10：25

学童保育における対応に困る児童の研究

○山村拓（桃山学院大学）

新井寛規（羽衣国際大学）

10：30～11：00

子どもたちが、より楽しくよりスムーズに「こまの空中手のせ」を獲得していくその道のり

○札内敏朗（太子橋わくわく学童保育）

11：00～11：25 総括討論

12：30～13：20 若手会員のためのラウンドテーブル

（8号館3階834教室・オンライン参加）

「実践者が研究活動に関わる意義について考える」

福 武利（元大阪府指導員／佛教大学大学院）

今回は、実践者から研究へ歩み始めたきっかけとそこでの学び、現在行っている研究から研究活動を続けていける環境確保における苦悩や葛藤などについて話題提供をいただき、「これからの学童保育研究」をすすめる実践研究者の在り方について真面目に議論したり、悩み相談などを行う場を目指します。

これからの学会活動を担い得る皆様、ぜひ積極的にご参加ください。

13:30～16:00

課題研究Ⅱ 子どもの育ちを支える学校内学童保育を考える

～学校連携システム構築と空間活用の展望～

(8号館5階851教室・オンライン参加)

【趣旨】

学校内で運営されるようになってきている現状がある。学童保育の設置場所については、学校生活の緊張から解放されるために、放課後の居場所は、学校の外にあるのが望ましいという議論もある。また、学童保育が学校内に設置されることで、「放課後生活の学校化」が進むのではないかという指摘もある。

この課題研究では、学校内学童保育が直面している課題を共有し、学校施設を活用しつつも、子どもの豊かな育ちを支える学童保育のあり方を考える。

具体的な論点の1つは、学校との連携のあり方である。子どもに関する情報の共有や、学校施設の利用に関する連携は日々の喫緊の課題であるが、それも不十分な実態が散見される。子どもの成長発達をともに支えるためにどう連携すべきか、現場の対応に依存しない連携システムを展望すると同時に、「放課後生活の学校化」という視点からも学校との連携のあり方について議論したい。

2つめの論点は、学校内学童保育の空間と環境整備の課題である。空き教室活用やタイムシェア推奨に象徴されるように、学童保育にはとりあえず余った空間があてがわれている感が否めない。ワンルームの教室空間では静動分離もままならず、専用の水回り設備も確保できていない事例も多い。また学校内学童保育にとって運動場は外遊び空間として不可欠であるが、自由に使えない実態もある。こうした現状を共有しつつ、子どもの育ちを支える居場所となるための施設整備、また学校設備利用の課題について考える。

加えて、学校とうまく連携するための実践例については、事前の情報収集により、当日、事例集を共有する予定である。

【報告者】

- ・住野好久氏（中国学園大学）：学童保育に求められる役割と学校連携のあり方（仮）
- ・矢吹真子氏（岡山県指導員）：小学校との連携システム確立に向けて（仮）
- ・塚田由佳里氏（同志社女子大学）：学校内学童保育所の空間課題（仮）
- ・野坂真英氏（さっぽろ青少年女性活動協会）：札幌市の学校内学童運営から（仮）
- ・鈴木瞬氏（金沢大学）：収集した学校との連携 各学童保育の課題と対応事例の紹介

【司会・コーディネーター】

- ・二宮衆一（和歌山大学）・小伊藤亜希子（大阪公立大学）

■ 大会参加費

□大会参加費(2 日 間) 会員3,000円 非会員4,000円 学生はそれぞれの半額。

(1日のみ) 会員2,000円 非会員3,000円 学生はそれぞれの半額。

※北海道文教大学の学生・院生は無償

□現地にて参加される方は、当日、参加費をお支払ください。おつりのないようご準備ください。

□オンラインでの参加を希望する方は、参加申込みを行った上で、下記の学童保育学会の口座に、6月11日(水)までに参加費をお支払いください。

【ゆうちょ銀行 総合口座 加入者名：日本学童保育学会】

・ゆうちょ銀行口座間の場合→ 記号：14130 番号：89883251

・他金融機関からの場合 → 店名：418 普通 口座番号：8988325

■ 大会参加申し込み（締め切り6月11日）

第15回研究大会参加申込



□大会に参加される方は、大会前日の6月11日(水)までに必ず事前に参加申し込みをして下さい。

□参加申し込みは右のQRコードで「参加申込フォーム」にアクセスして、必要事項をご記入下さい。

<https://forms.gle/TUdfSs3CuPWqbYSB7> (学会HPからでもできます。)

□オンラインでの参加も可能です。ただし、オンラインでの参加の場合は、課題研究ⅠとⅡ、自由研究発表のオンライン室のみの参加となります。オンライン参加希望の方は、「参加申込フォーム」にて申込み後、必ず参加費を事前にお支払いください。参加費の支払いを確認できた方にのみ、事前にZOOM情報をお送りいたします。6月11日(水)までに必ず参加申し込みと参加費の支払いをお願いします。

□なお、懇親会の参加をご希望される場合は、6月2日(月)までにお申し込みをお願いいたします。

■ 「懇親会」について（申し込み締め切り6月2日）

□大会1日目6月14日(土)18時から懇親会を行います。事前申し込みが必要です。

□会場は同会場内学生食堂です。

□参加費は、5000円です。当日会場にてお支払いいただきますようお願い申し上げます。

□懇親会への参加希望者は、6月2日(月)までに、前ページの「大会参加申込フォーム」よりお申し込み下さい。

□昨年に引き続き、交流企画を予定しております。ぜひみなさまふるってご参加ください。

■会場までのアクセス

〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1

・JR 恵庭駅「東口」から直進徒歩8分で北海道文教大学正門に到着



1. 新千歳空港から【JR 新千歳空港駅 ⇒ JR 南千歳駅 ⇒ JR 千歳駅 ⇒ JR 恵庭駅】

JR 新千歳空港駅より JR 千歳線「快速エアポート」乗車。3 駅目の「JR 恵庭駅」下車後、東口より直進徒歩8分で北海道文教大学正門に到着

- JR 恵庭駅まで快速「エアポート」で13分（快速エアポートは12分おきに運行しております）

2. 札幌駅・札幌市中心部から

- JR 利用の場合

札幌駅から

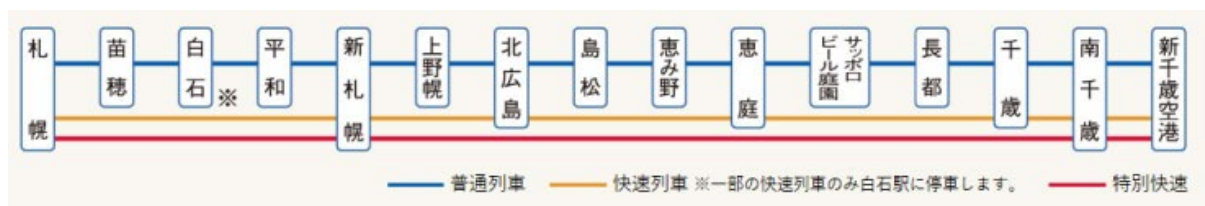
「JR 千歳線」乗車。3 駅目の「恵庭駅」下車後、東口より直進徒歩8分で北海道文教大学正門に到着

JR 恵庭駅まで快速「エアポート」で24分（快速エアポートは12分おきに運行しております）

新札幌駅から

「JR 千歳線」乗車。2 駅目の「恵庭駅」下車後、東口より直進徒歩8分で北海道文教大学正門に到着

JR 恵庭駅まで快速「エアポート」で15分（快速エアポートは12分おきに運行しております）



- 地下鉄ご利用の場合

南北線から

札幌市営地下鉄 南北線 さっぽろ駅下車後、JR 札幌駅より「JR 千歳線」乗車

「恵庭駅」下車後、東口より直進徒歩8分で北海道文教大学正門に到着

東西線から

札幌市営地下鉄 東西線 新さっぽろ駅下車後、JR 新札幌駅より「JR 千歳線」乗車

「恵庭駅」下車後、東口より直進徒歩8分で北海道文教大学正門に到着

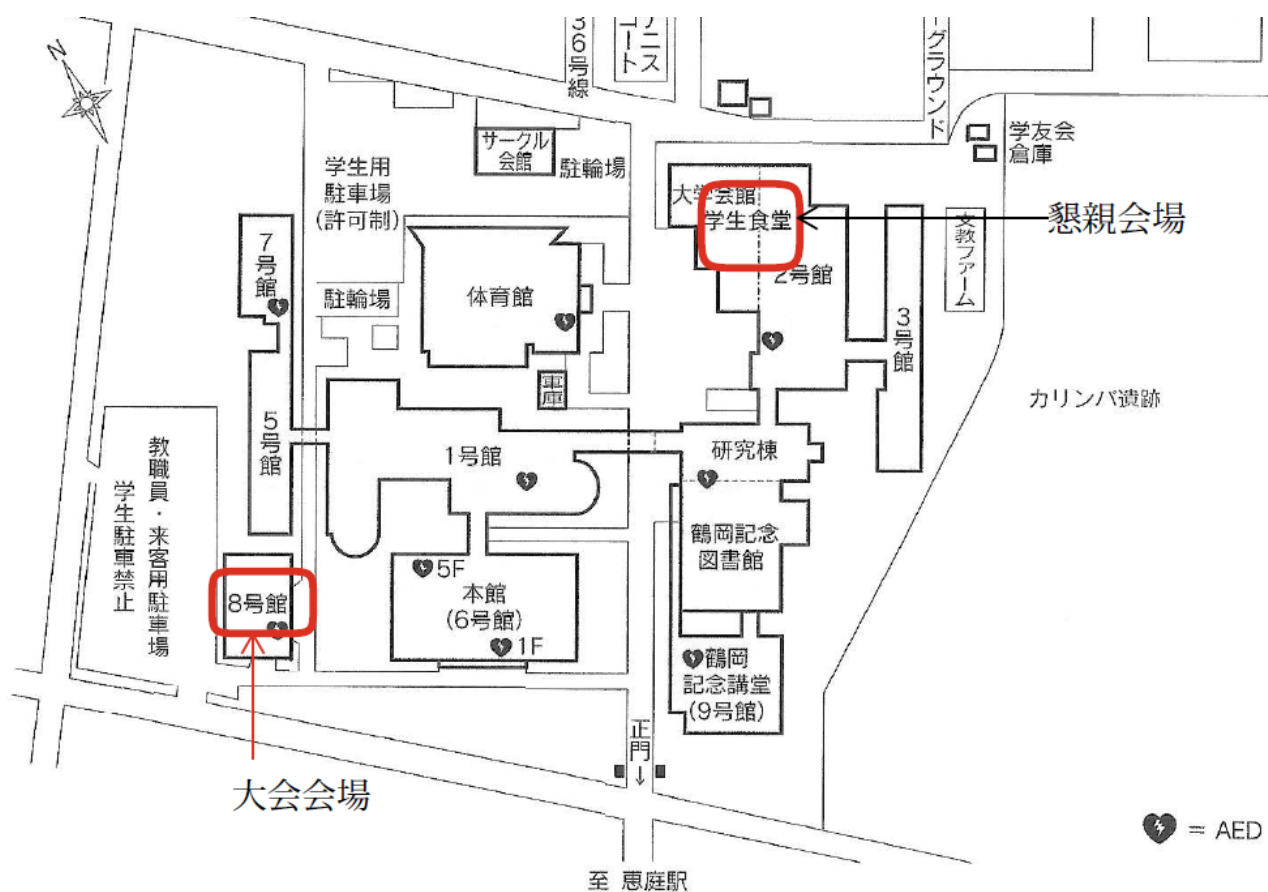
■駐車場について

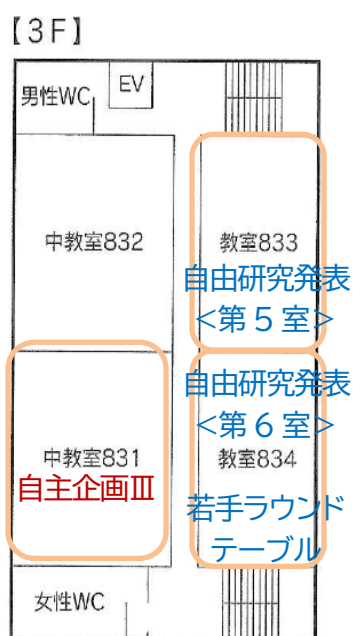
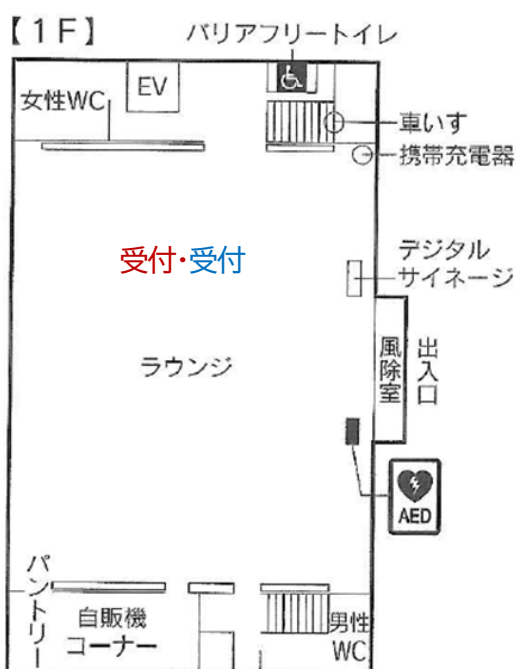
駐車場はありません。公共交通機関にてお越しください。

■昼食について

学内の食堂は利用できません。大学周辺のコンビニ等をご利用ください。

■会場図





<問い合わせ先>

□第15回大会の参加・発表等に関すること

第15回日本学童保育学会研究大会実行委員会 委員長 宮崎 隆志

E-mail : t-miyazaki (at) t. do-bunkyo dai. ac. jp

(at) は @ に置き換えて下さい。

□学会・入会・会員資格等に関すること

〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1番地 京都教育大学教育学部 松本歩子研究室気付

日本学童保育学会事務局 事務局長 松本歩子 E-mail : jimukyoku@gakudouhoikugakkai.com

<学会HP>

<http://www.gakudouhoikugakkai.com/>